



2021年(令和3年)

11月号(No. 918)

公益社団法人

日本山岳会

The Japanese Alpine Club

定価1部 150円

会員の会報購読料は年会費に含まれています

URL ● <http://www.jac.or.jp>e-mail ● jac-room@jac.or.jp

ふるさと南アルプス最南部で本格的な「エコ登山」の実践を

大蔵喜福

南アルプス最南部の信州側は、大自然だけが残されている稀有な山域である。このふるさと山々で、テイクイン・テイクアウトを徹底した、世界水準の「エコ登山」を試みてみたいと活動を始めた大蔵会員。多様な生態系と豊かな山村文化を擁する「地味なラスト・フロンティア」で、何を目指すのだろうか……。

最南部をエコ登山のメッカに

以前から温めていた計画「日本の山域で北米のような世界水準の『エコ登山』をやってみよう。その活動拠点を世界のメッカにしたい」というのが、現在取り組んでいる私のプロジェクトの目的である。それも私の故郷にある南アルプス(赤石山脈)最南部で。その理由は簡単である。何もない大自然だけの稀有な山域だからだ。信州

側の遠山郷に限るが、稜線までは営業山小屋やトイレは一つもない。

世界遺産になるような特別な植生や生物はないが、巨木を擁す深い大森林と、多くの希少動植物、昆虫、蝶……、厚みのある大自然に迎えられる。野生と一体化でき、あるいは共生できる山登りのフィールドは、南ア南部がその筆頭と言える。

少なくとも中緯度温帯の植生の

目次

ふるさと南アルプス最南部で本格的な「エコ登山」の実践を……	1
地域と人を結ぶ「信越トレイル」	
苗場山まで延伸し全長110kmに……	4
アンデスに魅せられて50年……	6
「エベレスト登頂50周年記念フォーラム」を豊岡市でやっとな開催……	7
「野生の山へ～北海道の山・奥美濃の山」講演会を開催……	8
連載 島の山旅への誘い①……	9
Climbing & Medicine・87……	12
東西南北……	13
図書紹介……	16
新入会員……	16
図書受入報告……	16
会務報告……	18
ルーム日誌……	18
会員異動……	18
INFORMATION……	19
編集後記……	19

▶ 日本山岳会事務局(含図書室)取扱時間
月・火・木……10～20時
水・金……13～20時
第2、第4土曜日……閉室
第1、第3、第5土曜日……10～18時

発達した山で、わざわざ厳格に「エコ登山」を遂行したのであるから、何を血迷ったかと言われそうだが、テイクイン・テイクアウトで、すべてのゴミ、排泄物を含めて持ち降ろすことは、山に生きる動植物になんらかの影響を残さなため、人間のウンチには何が含まれているか分からないからだ。「残すのは足跡だけ」に私は本気である。

55年前の15歳(高一)の夏、初めての3000m峰登山で赤石山脈縦走を体験した。そのときの鮮烈な印象はすごいものがあつた。体力不足で限界になりながらも、高山植物咲き乱れる二重山稜の窪地にはなんとも癒され、山の本当の姿に感動した。そんな想いも時がたつにつれ、アルピニズムだロッ

ククライミングだ冬山だと、峨々とした岩山に憧れ、アルプス、アンデス、ヒマラヤとひと通り経験したが、最初の山に舞い戻ったのだ。このプランは、私が最初に地元にて提案してから足掛け16年となるが、「登山観光の復活で、地元貢献できる地域おこし」の挑戦でもある。

赤石山脈最南部、聖岳、光岳周辺の山域は、信州側にしても駿州側にしても、ほとんど限界集落に囲まれている。一般的に言って「秘境」と言われている山域だ。最も山深く最も登りづらい3000m峰・聖岳、それに続くライチョウとハイマツの世界の南限である光岳、地味なラスト・フロンティアである。正に本格的なエコ登山を遂行するにふさわしい環境だ。私は仲間とともに一般社団法人・南



遠山郷・下栗集落から見た聖岳(左)と上河内岳

信州山岳文化伝統の会(2019年9月設立登記)を立ち上げ、会の顧問として目的に向かい活動を始めた。

最南部信州側の入山者は、なんと年間800人弱。そんな不人気の山域で、私は地元遠山郷の南信濃・上村(下栗)、そして飯田市の志高い方々の力を借り、今は昔、遠山森林鉄道の発着場・梨本停車場に年間数千〜1万人の登山者、自然愛好家を迎える、赤石山脈唯一の登山基地構想を頭に描いている。

最終的には自然学習プログラムのある、本来の意味でのビジター・ハウスを備え、登山者の利便(情報の提供、リーズナブルな宿泊、食堂、登山用具レンタル・ショップの完備など)も市井の力で確保し

たい。

山小屋が要らないエコ登山の柱は、小屋の代わりをするレンタル・テントとキャンプ場である。国有林や自治体の所有地を特別にキャン

プ地として借地。必要期間のみ常設されたテントを使用してもらうことで、登山者の負担をなくし、さらに自然への負荷も減らせるという、ローインパクト登山である。現在、光岳ルートでは経由する易老岳の易老尾根・面平(21年5月)に、聖岳・西沢渡登山口(22年5月)にそれぞれ10張りのレンタル・テントを設備する。

エコ登山のシステム

① ネットなどによる事前申し込みと料金支払い(レンタル・テント、携帯トイレ、炊事燃料)の後、全国各地からビジター・ハウス(現在、飯田市南信濃木沢811 旧木沢小学校)に集合。

② ビジター・ハウスでのオリエン

テーション(行動のモラル、ルート説明、天候注意、レンタル・テントの使用法、ゴミ・残飯・排泄物処理など説明)を受ける。

③ 登山ガイドやポーターが必要かどうかの可否。事前申し込み制(ネットなどより)。

④ ビジター・ハウスから全て徒歩にて入山できる。災害に強い登山道に復活させた林鉄軌道を行く。傾斜も緩くトンネルなどで安全。災害による崩壊があっても、登山道の補修は歩行用高巻き道などですぐに対応可。

⑤ 宿泊は開設期間(5月初旬〜11月中旬)に設置されたレンタル・テントの利用(3人用テント10張り用意。コロナ下では1テント1名の利用)。4cm厚ウレタン・マットを常備。

⑥ 食事はテント内常備のレンタル・ストーブ&クッカーを使用。燃料のガス・カートリッジのみ持参。

⑦ 装備は個人装備に水と食糧(現地調達地の産地消)、寝袋。

いずれは、個人装備を含め準備がなくても、設置テントを含め、現地完全レンタルが可能となるようにしたい。インバウンドや中高年の登山者には負担軽減の朗報とな

る。多くの登山者が同じような装備をそれぞれ持ち込めば、それだけ自然を傷付けることになる。より厳密なエコ登山は「持ち込まない、捨てない、持ち帰る」の徹底にある。

多様な生態系の博物館

一気に数倍もの登山客は要らない。定められたルートに1回で何人と規制するのも、持続可能な開発目標に則す。すでに林業も廃れ、第1次産業も従事者が減り、高齢化社会でできる改革はほかにない。登山を核とした文化融合のおもてなし観光で、感動を覚えてもらうことがいけばのである。時間をかけて山・人・食が一体となった、暮らすような旅を売ること、リピーターの獲得を目指す。これは遠山郷の未来ビジョンとなる。

赤石山脈信州側のすばらしさは「多様な生態系の博物館」に尽きる。大自然の発見と好奇心がいちばんの贈り物と言える。もとよりこの深山一帯は御用林として守られ、俗化回避の歴史を持つ。多量の降雨が良質な森を育む要因となり、山麓の広葉樹、ブナやミズナラ、カツラ……から針葉樹へと樹相が変



易老尾根・面平のレンタル・テントのキャンプ場



面平の標高1500m地点にそびえるサワラの巨木

わる。高度を上げるにつれサワラや天然生ヒノキを混ぜ、さらにシラベやトウヒ、コメツガなどの原生林に至る。稜線には見事なハイマツ群落、高山植物の群生と相成す様は天上の美観。動物はカモシカをはじめとした哺乳類、鳥類はライチョウ、ダケガラス、イワツバメなど百種以上、昆虫や高山蝶もきわめて数が多い。

自然ばかりではなく人との関わりも深く長い。それも信仰がらみではない、生活に根差した山路がある。ウォルター・ウエストンは1892(明治25)年、駿信国境にそびえるこの山一帯を、北アルプ

スとは比較にならないくらい未開の山城であり、日本人ですら知る人はほとんどいない、という旨を記している。あまり知られていないが、地元静岡県の『井川村史』には、易老岳の頂を越えて信州・遠山谷に通じる道が往来と交易に使われたとあり、明治後期の陸地測量部5万分の1地図には、その道がはっきり示されている。高山ではあるが、人の生活との密接な関係を考えると600年以上前より開けていたわけで、山国の自然の中で人々が創り上げてきた文化の魅力、多くの無形民俗文化財としての伝統芸能やお神楽、豊富な伝

説や民話とともに、登山と文化の融合は枚挙にいとまがない。

自然そして登山は、人との関わりがあつてこそのもので、訪れる登山者は自然を愛でるばかりではなく、自然を見て触つて観察し、山からの声を人に伝える自然界の代弁者として活動してほしいと願っている。エコ登山またはエコ・ツーリズムの価値は、登山者・訪問者がモニタリングした情報をフィードバックし、自然と文化の融合を自らの学習に活かしていくサイクルがあつてこそものだ。南ア最南部の山城の魅力は、入山者の目に入る自然からのメッセージである。

19年の秋より、ここ遠山郷地域を北米のような世界水準の「エコ登山」のメッカにブランド化しようとして走ってきたが、世界を席巻するコロナ禍という存在が、ある意味方になったような気もしている。長雨や台風といった災害もあつたし、思う以上の温暖化でヤマビルの攻撃にも辟辟したが、森林鉄道軌道を登山道に再生した。完成後のウォーキング・ツアーの実施は、2本ともキャンセル待ちの大盛況である。「何もない」を活か

すエコ登山の、レンタル・テントによるキャンプ登山のファムトリップ(業界への招待・体験ツアー)では、大いに賛同を得、営業も掛けないのに、多くの予約が入った。

最終的にはエコ・ツーリズム推進法に則り、地区の自治体が核となつて地域住民や民間団体とともに推進協議会を設ける。さらに自然環境保全や地域振興、環境教育推進の目的を持つてエリアを定め、保護の理由やゴミ放置の禁止、排泄物持ち帰り、立ち入り禁止区域の設定など、独自のルールを盛り込んだ「全体構想」を作成し、環境省ほかの認定を目指している。地元飯田市も市長をはじめとし「エコ登山を官民共同で取り組む」と公約、21年度当初予算編成の基本方針でも重点施策の一つと位置付けられた。

今後は、南アルプスのシカ対策や高山植物の再生にも力を注ぎたいと思うし、そのためにも着地型ツーリズム、登山用地産地消費品の開発、百名山コンプリート・ツアーなどを考えている。いずれは、登山ガイドの住むスイス・ツェルマツトのような山都としたい。

(南信州山岳文化伝統の会顧問)

NEWS

地域と人を結ぶ「信越トレイル」
苗場山まで延伸し全長110kmに

大西宏志

信越トレイルの概要

日本海から約30km、長野と新潟の県境に、標高1000m級の山並みが続く関田山脈せきだがある。ここは冬には積雪が8mを超える、世界でも有数の豪雪地帯であり、雪国ならではの特異な自然と文化、そして歴史が育まれた里山である。ブナ林に囲まれ、かつては信越地域の物資や人の往来が盛んで、戦国の歴史にゆかりのある13もの峠道があった。

信越トレイルは、この関田山脈の尾根沿いに連なるトレッキング・ルートである。国土交通省（当時は建設省）による地域連携に関する調査事業から、新潟と長野の県境の尾根沿いにルートを造る構想が生まれたのが2000年。04年にはNPO法人・信越トレイルクラブが設立され、そこから自然や動植物の調査、ルート設定、トレイル維持管理のシステム構築などを経て、斑尾山から天山水山までの80kmが開通したのが08年9月。当時は

「トレイル」という言葉そのものを聞き慣れない方がほとんどであったが、あれから13年が経過し、国内ではロングトレイルの草分けとして信越トレイルの名前は浸透し年間2〜3万人のハイカーが訪れるまでに成長した。

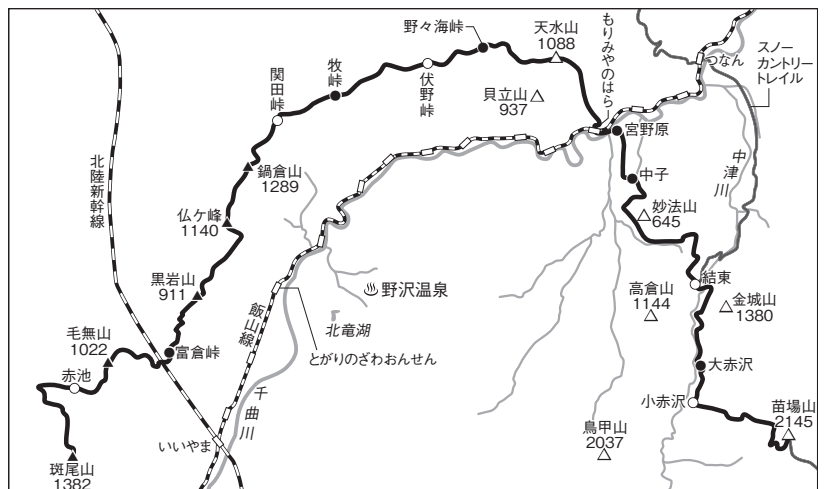
ロングトレイルはアメリカ発祥の文化であり、その「道」は山の頂上を目指すためのものではなく、多種多様な自然や、それらと共生してきた地域の文化や歴史、人々との触れ合いを楽しむための「歩く道」として、登山とは違った魅力に溢れている。当クラブの理事であり、バックパッカーで作家の故加藤則芳氏の提唱により、その理念を色濃く受け継いだのが信越トレイルだ。豊かな関田山脈の自然や豪雪地帯の文化、郷土の食事なども含めた「歩く旅」として楽しむことができるフィールドとして、多くの方々に愛されている。

長年の夢だった苗場山への延伸

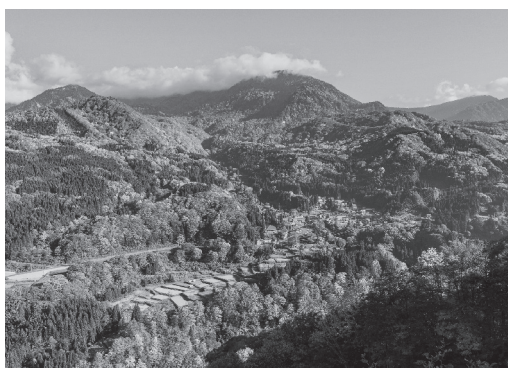
加藤さんは生前、信越ト
レイルを東は苗場山、白砂
山、西は雨飾山、白馬連峰
までつなげたいという夢を
描いていた。その想いに応
えるべく、加藤さんが亡く
なつた翌年（14年）から、信
越トレイルを苗場山まで延
伸しようという計画が、事
務局を中心に具体的に動き
始めた。どこにルートを通
すか、地権者は誰なのか、何
度も調査を繰り返しては、
苗場山までつながる最善の
ルートを見付けることがで
きず、なかなか本格的な整
備に着手することができな
いまま時は過ぎていった。

そのようななか18年、総務省の「地域おこし協力隊」という制度を活用して、新

たなスタッフが3名、事務局に加わることとなった。そのうち2名はアメリカのロングトレイルを踏破した経験を持ち、自分がアメリカで地域の方々から受けた様々な恩恵を、信越トレイルに関わることで恩返しをしないと、熱い想いと志を持って飛び込んできた若者である。彼らが加わったことによ



り、延伸の計画は一気に進み始めた。18年8月には、延伸計画を本格的に進めるため、周辺自治体や関係者によつて構成される「信越トレイル連絡会」内に「苗場山延伸部会」が設置された。部会は、延伸区間に当たる新潟県津南町、長野県栄村の古道や歴史、自然に詳しく有識者、行政担当者、信越トレ



苗場山と秋山郷・小赤沢集落 撮影＝©阿部宣彦

イルクラブ事務局が中心となって、ルート調査、資源調査、地権者確認、集落ごとの住民説明会などを行ないながら、苗場山までの延伸ルートを確定させ、地域との合意形成を図っていった。ルート確定後は、マップやガイドブックの作成、古道の復元作業、道標の設置作業などを多くのボランティアの方々とともに実施し、21年9月25日、長年の悲願であった苗場山までの延伸ルート運用開始を迎えることとなった。

また、延伸に合わせ記念イベントを開催したが、Youtubeでアーカイブ配信も行なっているため、視聴されていない方にはぜひご

覧いただきたい。(URL→<https://youtu.be/fGk1dEAKZIE>)

延伸区間の見どころ

今回延伸された区間は、これまでの信越トレイルにはない魅力が多く詰まっている。既設のトレイルを関田山脈のブナ林を抜ける「山のステーション」と呼ぶならば、新設された延伸区間は、苗場山麓の集落と集落を結ぶ「里のステーション」と呼ぶに相応しい区間だろう。

段々に連なる水田を抜ける農道を通り、JR飯山線・森宮野原駅舎内を抜け、日本一の信濃川(千曲川)を渡り、信濃川が形成した河岸段丘を登ると、そこには一面の水



トレイルは集落内を歩き、秋山郷の暮らしを垣間見ることができる

田と苗場山の眺望が目の前に広がる。そこから先はまるで北海道の風景を思わせるような妙法育成牧場の横を延々と歩き、再度、河岸段丘を下ると、^{秘境}と呼ばれる「秋山郷」へと踏み入れる。苛酷な豪雪下の暮らしと独自の雪国文化が色濃く残る秋山郷は、谷底にわずかにある平地にへばりつくように集落が点在し、今でもマタギ文化が継承される土地である。

苗場山や鳥甲山^{トリカミ}の噴火によって形成された溶岩台地でもあり、苗場山麓ジオパークにも含まれる、地質的にも非常に面白いエリアである。秋山郷の小赤沢集落から標高差1300mを登り詰めると、信越トレイルのクライマックスに相応しい、一面の高層湿原とお花畑が広がる天空の楽園、苗場山頂へと到達する。なお、これまではセクションが6区間であったが、新たに4区間が追加され、全10セクションとなった。

今後の展望

構想段階から21年の歳月が経過した。加藤さんは、信越トレイルはできるだけ自然に負荷を与えない「爪でひっかいたような道」造り

を提唱し、重機は使わず、全てボランティアによる手作業で維持管理がなされてきた。そこには様々な方の想いと汗が詰まっており、この想いと活動を将来に継承していくことが我々の使命である。

さらには、加藤さんの夢である西への延伸計画が次の段階として見えてきた。妙高戸隠連山国立公園では、環境省が主体となり、新たなロングトレイル構想が進んでいる。雨飾山、斑尾山、戸隠山、妙高山の頭文字を取り、そのトレイルの名称は「あまどみトレイル」と呼ぶ。今年10月には、長野駅から戸隠高原を抜け、信越トレイルの起点でもある斑尾山に至る約90kmがつながる予定だ。今後はさらに雨飾山方面へのルート延伸も計画されており、「あまどみトレイル」と「信越トレイル」が接続(連携)すれば、西への延伸計画もそう遠くない将来に達成されるだろう。

◆延伸区間が掲載された「信越トレイル公式マップ」④、『信越トレイル公式ガイドブック』は、信越トレイル公式HPよりお求めいただけます(www.s-trail.net)。

(NPO法人・信越トレイルクラブ 事務局長)

著者、自著を語る

アンデスに魅せられて50年

山本紀夫

アンデスやアマゾンなどの南アメリカに通うようになってから50年余りたった。この間に私がアンデスに通った回数は50回余り、現

地での滞在日数も十数年になる。そのきっかけになった出会いこそは、ボリビア・アンデスでの登山であつた。1970年9月のこと

だ。この前年に、私は初めてアンデスの土地を踏んだが、それは京都大学の学術調査隊であつたため、

登山用具などを持参していたが、調査に忙しくて登山の機会はなかった。そこで私は、帰国した翌年のアンデス登山隊に参加して、再

びアンデスに向かったのであつた。この登山隊では、念願であつた未踏峰にも登ることができた。ペ

ルーとボリビアの国境近くにある、ティティカカ湖畔にそびえるレア

ル山群中のハンコラーヤ（5545m）であつた。この山は美しい氷

壁に護られた独立峰で、BCから東京外大山岳部OBの竹下孝哉氏

とふたりで氷河を横切り、雪稜をたどつて午後、頂上に達した。9

月23日のことであつた。そして、この下山中に運命的な出会いがあつたのだ。

私たちふたりはザイルを背に、カラビナやアイスハーケンを腰に着け、ジャラジャラ音を立てて下山していった。雪は標高5000

mくらいで消え、そこをしばらく下ると草原地帯になってくる。そこでひとりのインディオの男性に

出会った。アンデス特産のリヤマやアルパカの放牧のためであつた。こんな高地での人の出現に私は大

変驚いた。もちろん、突然の私たちの出現に彼の方も驚いたようであつたが、それ以上に私たちは驚

いた。それというのも、私たちが完全装備だというのは、彼は素足に古タイヤを再利用したサンダル

を履き、脛の短いズボンをはいていたからだ。そこはもうアンデスの人たちにとっては放牧の世界、

日常の世界だったのである。この後、私にはいくつもの疑問が生まれてきた。まず、「標高50

00mに近い高地で人が日常的に暮らしている所は、この地球上ではアンデスのほかにはほとんど例を見ないのではないか」と思った。それでは、「なぜ彼らはこんな高地で暮らすのか」、また「その暮らしとはどのようなものなのだろうか」、さらに「彼らがインカ文明の子孫であるのなら、インカ帝国がアンデス高地で誕生した」と高地の暮らしの間には密接な関係があるのではないか」「もしそうなら、なぜ民族学（文化人類学）者たちは彼らの暮らしを調査しないのだろうか」などの疑問も生まれた。

とはいえ、当時の私は民族学を専攻する研究者ではなく、農学部

の大学院生であり、長期にわたる民族学的な定着調査はできなかった。こうして、私は大きな決断を

迫られることになる。農学から足を洗い、民族学に転向しようかと

考えだしたのだ。それというのも、私は二度にわたるアンデスでの調査と登山の経験から、自分が本質的に実験室の研究者ではなく、フ

ールドワークに向いていることに気付いたからだ。

そのためには、まずは何をしておいても博士論文を完成しなければならなかったのだ、しばらくは登山

も諦め、全力を研究に投入した。そのお陰で1978年9月には論文が完成したので、それを大学に提出、また農学から民族学に転向した。その後すぐの9月末にはアンデスに向かった。ほかでもない、アンデス高地で先住民の人たちと一緒に暮らし、民族学の調査を開始するためだ。その調査地として選んだ所こそは、かつてインカ帝国の中心地であつたクスコ地方であつた。これでようやくインカの末裔たちと暮らしの夢が実現したのであつた。

このアンデス調査の後私にはメキシコ、ヒマラヤ・チベット、そしてエチオピア高地でも山岳民族の調査を何度も行なった。その成果をアンデスでの調査結果と比較して、高地における人々の暮らしをより深く知ろうとしたのだ。近刊の拙著『高地文明』（中公新書、2021年6月、定価〓本体1050円＋税）は、これらの山岳地域における環境と人々の関係について論じたものである。ご関心のある方には、お目通しいただければ幸いである。

（国立民族学博物館名誉教授、第8回秩父宮記念山岳賞受賞者）

REPORT

「エベレスト登頂50周年記念フォーラム」
を豊岡市でやっと開催

神長幹雄

「1970年5月11日午前9時10分、最終キャンプを出発した松浦輝夫と植村直己は、日本人として初めて世界最高峰エベレストに登頂しました。快晴のなか、2人は並ぶようにして登頂したといいます。」

「エベレスト登頂50周年記念フォーラム」のチラシに書かれた、日本人初登頂の様子である。この翌日には、平林克敏隊員とサードのチヨタレイが第2登にも成功、当



平林会員と神崎会員による、半世紀前の登山を振り返るトーク

時は大変なニュースとなった。

この日本人初のエベレスト登頂に、ここ2年ほど関わらせていただいた。昨年の『山岳』第115号（2020年）には、巻頭で「エベレスト登頂50周年」の記事を100ページにわたって特集した。そして、本来なら発刊の直前、50周年の記念フォーラムも開催されるはずだった。しかし、5月9日の開催予定日、新型コロナウイルスの感染拡大によって急遽延期。翌年から終息しているだろうと、再度予定した21年4月24日も収まる気配が見えず、また延期となってしまう。コロナ禍に振り回された2年間だった。

「3度目の正直」となる10月16日、兵庫県豊岡市の日高文化体育館で「講演と映画の集い」と銘打った記念フォーラムが無事開催された。近隣の豊岡市民を中心にJAC関西支部員も加わり、約300人が参加してくれた。

古野淳会長の挨拶に続いて映像

『エベレスト登頂—1970年の記録』を上映。テレビ放映されたものを11分にまとめたダイジェスト版で、貴重な記録にじっと見入る参加者の姿が印象的だった。

メインのトーク・イベントは2つ。「初登頂への思い」と題して、第2次登頂者である平林克敏会員に、同じ登山隊員のひとり、神崎忠男会員が聞き手となって話を引き出してもらった。登頂時の感想や亡くなった成田潔思隊員の思い出などが語られ、平林会員が担当していた輸送の大変さや、酸素マスクの改良など話は尽きなかった。登山隊の半数以上の隊員が亡くなられており、当時の貴重なエピソードを聞くことができて、参加者には得難い体験となった。

トーク・イベントの2つ目は、「登頂ルートと装備・技術の変遷」というテーマで、1980年、JACC北壁隊の登頂隊員だった重廣恒夫会員に講演してもらった。パワポイントを使いながら、初登頂時の南東稜をはじめ主要なルートを紹介。続いて登山装備では、1924年と2019年の装備の進展状況を比較、酸素ボンベの軽量化や登山靴、防寒着など装備の変

遷が紹介された。なかでも登頂者数の急増や集中化など、多角的にエベレストを俯瞰できるような構成で、興味深い内容となった。

2部のフォーラムはアトラクション。イラストレーターの黒田征太郎さんによるライブ・ペインティング「壁」は、3枚の大きな白いキャンバスにその場でイメージした画を描くというもの。同時に、地元出身のアーティストBU-NNIさんによるキーボードの生演奏や、俳優の市毛良枝さんによる「エベレストに埋めた写真」の朗読など、会場は大いに盛り上がった。

翌17日は朝からあいにくの雨だったが、地元山岳会および関西支部の40人は、植村直己ゆかりの蘇武岳へ登山。滑りやすい登山道に泥だらけになりながらも、なんとか無事に下山することができた。

今年リニアル・オープンした植村直己冒険館では、4月20日から10月19日まで「写真で振り返る日本人のエベレスト展」を同時に開催。会場にはエベレストの頂上の石や登山ルートが表示された大きな模型、山の成り立ちなども展示されて、多くの入館者たちを魅了させてくれた。

REPORT

「野生の山へ」北海道の山・奥美濃の山」
講演会を開催

今年6月に、旧関西学生山岳連盟時代の山仲間である片岡泰男氏（東海支部所属）から面白い情報が舞い込んだ。現・東海支部技術向上委員会委員長の清水克宏氏がナカニシヤ出版から『岐阜百秀山』を上梓したという。京都・滋賀支部でも、ぜひとも清水氏の新著についての講演会を開催し、紹介したいと思った。

問題は新型コロナウイルスの感



第1部講演のイグルースキー米山氏



第2部講演の清水克宏氏

京都・滋賀支部 伊原哲士

染状況だった。正直、講演会の開催を決めた6月時点では開催できるかどうかは予測がなかった。また、公共の会場は新型コロナウイルスの感染状況により突然、閉館になる懸念もあった。初代南極越冬隊長で元・日本山岳会会長の西堀榮三郎さんは、「困難なことをやるときは、やるかやらないかを先に決めて行動すると良い」と言っていた。片岡氏と協議して、「やりたい」と決めた。それぞれの支部や関係先に相談し、日時は10月16日(土)と決まった。

時間も少し取れるので、「イグルー登山」などで若手の岳人に人氣のある、北海道大学山岳部OBの米山悟氏にも講演をお願いし、結果としては清水氏との二部構成で、中身の濃い講演会となった。講演のタイトルは「野生の山へ」北海道の山・奥美濃の山」、講演者の略歴と演題は次のとおり。

米山悟氏。1964年松本市生まれで、NHKの山岳カメラマン。

札幌、長野、東京、名古屋、函館、青森、甲府、豊橋、松本、名古屋と転勤し、東日本全域を登る。2016年10月、『冒険登山のすすめ』（ちくまプリマー新書）を上梓。SNSサイト「ヤマレコ」に全ての登山記録を登録、人気を博す。また「イグルースキー米山」としてイグルー技術を講演会やSNSで紹介している。その筋のファンも多い。演題は「北海道式の山の登り方 北の山への誘い―北の山のイグルー技術考察」。

清水克宏氏。1958年大垣市生まれ。日本全国800以上の山や海外の山にも登山、大垣山岳協会常任理事。約5年間をかけて、岐阜県の全454山のうち道なき山を多数含む200山余りを踏査し、2021年5月『森の国水の国 岐阜百秀山』（ナカニシヤ出版）を上梓。演題は「京都の岳人が拓いた奥美濃の道なき山の今―森の国水の国 岐阜百秀山」出版にあたって。

本講演は予定どおりの日時に、同志社大学山岳会のご尽力により同大新島会館で開催した。参加者は55名だった。

米山悟氏の講演は北大山岳部の

伝統の中で培った「イグルー登山」の話。確かに雪山で重いテントを捨てイグルーに切り替えると、その分の装備も軽量化でき、行動範囲も広がる。また、雪洞よりもイグルーは「おおむね30cm以上の少ない雪」で設営できるのが利点である。

清水克宏氏の講演は「奥美濃の山の今」についての話。岐阜の山についてまとまって紹介したものは『ぎふ百山』（1975年、岐阜県山岳連盟・編集）があるが、45年ぶりとなるのが清水氏の新著。残雪期にしかたどり着けない山も多く紹介されている。

結局、「野生の山」とは何か。米山氏は地下足袋を愛用している。登山靴と違い小さな石にも敏感になる。その分、自然と一体になれる。清水氏の道なき岐阜の山も、道がなければ残雪期にたどり着けば良いという考え方だ。山はそこにあり、山の動物たちは自由に動き回っている。人もしかり。既成概念にとらわれず、本来の野生動物としてのヒトの本能を蘇らせて楽しむのも、また登山であると思った。

（京都・滋賀支部事務局長）

連載■島の山旅への誘い⑪

屋久島

—宮之浦岳、太忠岳、モツチヨム岳など

渡邊太郎

屋久島の山概説

屋久島は、鹿児島県大隅半島の南端である佐多岬より約60kmの洋上に浮かぶ、周囲約130kmのほぼ円形の島である。島の中心部には九州最高峰の宮之浦岳（1936m）のみならず1800mを超える山がほかに7座もあり、島そのものが山岳と言っても過言ではない。さらに、屋久島の近海を流れる黒潮から水蒸気の供給を受け



平石岩屋から見た宮之浦岳(右)と翁岳

た空気が山の斜面を上昇、雲が発生し、世界有数の多雨地帯を形成している。その影響で、樹齢7200年とも言われる縄文杉を代表とする、緑豊かな森が育まれた。

一方、屋久島は南の島とはいえ冬季には多くの積雪がある。年によつては宮之浦岳山頂部では積雪が数mにも及ぶ。宮之浦岳や縄文杉など屋久島の「奥岳」と称される深部を縦走する登山適期は、3月から11月となっている。山頂付近は森林限界の世界で、高木は少なく日差しが直接体に射す厳しい環境となる。真夏の登山は体力を消耗するため避け、春（4～5月）または秋（9～11月）がお勧めだ。なお、毎年5月後半～6月上旬にはヤクシマシヤクナゲが花期を迎えるので、こちらも見逃せない。

屋久島は1993年12月に、白神山地とともに日本初の世界自然遺産に登録された。登録は、樹齢数千年のヤクスギなどの極めて特

殊な森林植生を持つこと、亜熱帯から冷温帯・亜高山帯に及ぶ植生の垂直分布があり、まさに日本列島の縮図とも言われる植生があること、世界的にも減少傾向にある照葉樹の原生林が残されていることが大きな登録理由となっている。しかし、屋久島全体が世界遺産地域ではなく、登録範囲は島の約21%に過ぎない。また、このエリアは過去に人の手が入っている。江戸時代以降長く続いた伐採の歴史があり、300年以上の年月をかけて極相林に至ったエリアを中心に、世界遺産に登録された。

主な山の登山ガイド

▲宮之浦岳・縄文杉・白谷雲水峽を巡るコース（1泊2日）

淀川登山口→黒味岳→宮之浦岳（永田岳→新高塚小屋（泊）→縄文杉→白谷雲水峽

1日目。淀川登山口は標高1360m。屋久杉、モミ、ツガを中心とした針広混交林の森を歩く。淀川小屋周辺から世界遺産登録エリアに入り、淀川の清流を渡ると本格的に山登りが始まる。高度を上げると周りの木々も徐々に背の低いものが増えてくる。高盤岳ト

ーフ岩の奇岩を眺めしばらく歩くと、日本では最南端にある高層湿原である小花之江河、花之江河に至る。ここから15分ほどで黒味別れ。黒味岳（1831m）山頂まで往復1時間半ほど。屋久島で6番目に高い山で、山頂からは宮之浦岳への主稜線を眺めることができ、高山植物も非常に多い山だ。

黒味別れに戻り、黒味岳東斜面をトラバース。ロープが懸かる道を進み、小さい沢を渡ると投石平。晴天時は宮之浦岳、永田岳を眺めることができる。投石平から15分ほどで森林限界の世界へ。ここからは投石岳・安房岳・翁岳の中腹をトラバース。6月上旬はヤクシマシヤクナゲが咲き乱れ、天空のお花畑になる。宮之浦岳山頂まで1km地点からは最後の急坂。栗生岳山頂（1867m）を経て宮之浦岳山頂へ。山頂は双耳峰となっており西峰が山頂。

宮之浦岳山頂は九州で一番高い所。好天時は太平洋、東シナ海のみならず、九州南部の開聞岳、種子島、口之永良部島を見渡すことができる。山頂からわずかに永田岳方面に降りると大きな岩があり、裏側に回り込むと祠（天正14年建

立 一品宝壽大権現がある。ここから宮之浦岳北斜面を下ると焼野三叉路。永田岳と新高塚方面の分岐点である。永田岳山頂までは往復2時間強。永田岳山頂からは、荒々しい岩峰である障子岳を望むことができる。

焼野三叉路に戻り、平石を経て平石岩屋までは、多少のアップダ



ウンはあるものの屋久島の天上世界を楽しめる。平石岩屋の岩を登ると宮之浦岳、永田岳を一望できる最高の休憩場所。岩屋から急坂を下ると徐々に森林限界の世界から再び森の世界へ。低木の森をしばらく歩くと宮之浦溪谷の開けた景色が広がり、巨大な岩、ビャクシン岳(通称・坊主岩)が突然目の

前に現われる。ここから尾根を東側に乗り越えたと第2展望台。今度は屋久島一番の流域面積を誇る安房川の谷を見渡せる。ここからさらに高度を下げると第1展望台を経て新高塚小屋に到着する。

2日目。新高塚小屋から1時間半ほど歩くと高塚小屋、縄文杉となる。1966(昭和41)年、役場勤務の岩川貞次氏により世に広められた、屋久島を代表する屋久杉だ。推定樹齢2170〜7200年。胸高周囲16・4mあり、現在確認されている屋久杉の中では最も太い。縄文杉からさらに進むと夫婦杉、大王杉、ウィルソン株を経て森林軌道に至る。以前は伐採した屋久杉を運搬するために使われていた軌道だが、現在は主に山小屋の屎尿搬出や緊急時用として利用されている。軌道を1時間ほど歩くと楠川別れ。白谷雲水峽の辻峠までは高度差約300m。辻峠から太鼓岩まで往復30分。太鼓岩からは歩いてきた縦走路が見渡せる。白谷雲水峽では、苔が一面に広がった景色を楽しめる。

▲太忠岳

ヤクスギランドへ太忠岳往復
屋久島随一、針葉樹の天然林の

森を歩き、山頂に立つ天柱石を目指す(所要7時間)。



太忠岳のシンボルとなっている、花崗岩塔の天柱石

太忠岳(1497m)は、安房集落の「岳参り」の山で、山頂に特徴的な花崗岩の柱「天柱石」がそり立っている。太忠岳の登山口は、安房から車で40分のヤクスギランド。ヤクスギランド入り口から杉の天然林と苔が美しい森が続く。特に「天文の森」と呼ばれるエリアは杉林が美しく、樹齢約2000年の釈迦杉も見応えがある。さらに急登を切り切ると太忠岳山頂へ。山頂に立つ天柱石は約40mの一枚岩で大迫力。山頂からは展望がすばらしく、愛子岳や安房集落が望め、さらに奥を望むと種子島も遠望で

きる。

▲モッチョム岳

千尋滝駐車場〜モッチョム岳往復(所要7時間)

千尋滝駐車場から片道3km弱と距離は短い山ではあるが、急坂が続く、足元も木の根や岩が多く、ロープ場も多い登山道となっている。道中では万代杉、モッチョム太郎と名付けられた屋久杉の巨木や、苔の美しい沢を楽しむことができる。

急坂を登り続けるとモッチョム岳の主稜線に達する。この主稜線に沿ってしばらく歩くと、最高到達点である神山展望台。モッチョム岳山頂や表生、原集落が一望で



尾之間から見上げた新緑のモッチョム岳(右)と割石岳

きる。ここから先は、岩稜をロープを伝って登ったり下ったりの連続。周りの植生もヤクザザが目立ち始め、アカマツも出てくる。足場に気を付けて歩いていくと山頂に至る。山頂からは太平洋や尾之間集落、屋久島南部の海岸線がきれいに見渡せる。

山旅のメモ

【環境保全協力金】

世界自然遺産の島、屋久島の山岳部の環境を保全するため、2017(平成29)年3月1日からスタートしている「世界自然遺産屋久島山岳部環境保全協力金」(日帰り登山1000円、宿泊登山20



苔むした岩と流れが美しい白谷雲水峽

00円)へのご協力をお願いしている。この協力金は、自然環境への負荷を軽減するため、トイレや登山道などの適切な管理等を行なうための協力金である。

【屋久島へのアクセス】

屋久島へ入る手段は空路と海路。それぞれ繁忙期、閑散期で便数が変更する。

空路は鹿児島空港からJAC(日本エアコミューター)が1日数便(所要時間30分)、大阪伊丹空港・福岡空港からそれぞれ1日1便ある(所要時間はそれぞれ1時間半前後)。

海路は鹿児島南埠頭より高速船(トッピー、種子屋久高速船株)とフェリー屋久島2(折田汽船株)。

高速船(トッピー)が鹿児島南埠頭より1日数便。宮之浦港・安房港に到着する便がある。所要時間は直行便だと1時間40分ほど。指宿・種子島経由になると2時間半。フェリー屋久島2は鹿児島南埠頭を朝8時半に出港し、屋久島に到着するのが12時半(約4時間)。1時間ほど停泊し、13時半に鹿児島に向けて出港する。

【主要登山口までのアクセス】

*荒川登山口(縄文杉への玄関

口) 3月から11月までは一般車両乗り入れ禁止のため、安房の屋久杉自然館よりシャトルバスかタクシーを利用する。シャトルバスのチケットは、島内観光案内所で購入が可能。屋久杉自然館まではレンタカーもしくはタクシーを利用するか、路線バス(北回り、南回りそれぞれ1便のみ)を利用する。12月から翌年2月までは、一般車両でも荒川登山口まで通行可能だが、路面凍結時は注意が必要。

*淀川登山口(宮之浦岳への玄関口) 通年、一般車両乗り入れ可能。レンタカーやタクシーで登山口まで行くことも可能で、安房集落より50分。路線バスを利用する方は、淀川登山口手前の紀元杉まで。紀元杉から淀川登山口までは徒歩で約30分。バスの便数も少ないので、事前の時間確認が必要。早朝便なし。

*白谷雲水峽 通年、一般車両乗り入れ可能。レンタカーやタクシーで登山口まで行くことも可能。宮之浦集落より約20分。路線バスも運行しているが、便数は少ないので事前の時間確認が必要。

(公益社団法人・日本山岳ガイド協会理事、屋久島町在住)

Climbing&Medicine・87

新型コロナウイルス感染拡大の中で 登山者が留意すること

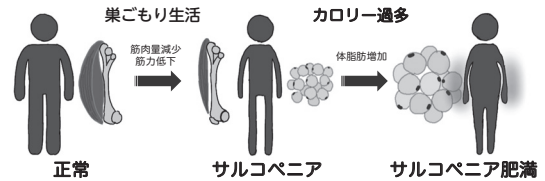
橋本しをり(医療委員会)

2021年9月23日に開催された支部合同会議で、新型コロナウイルス感染症蔓延期における登山について講演したその概要を記載する。

最初に新型コロナウイルス感染症について、発生経過、臨床像、伝播様式、変異株問題などを紹介した。伝播は飛沫感染と接触感染により、換気が悪いと咳やくしゃみをしなくても感染が起こる。2021年7月に生じた第5波における感染者数の急激な増加は、感染力の強い変異株、デルタ株によるもので、40～50歳代の若年重症患者が急増し、重症化までの期間も短いという特徴があった。この第5波は全国的に終息に向かっているが、専門家の試算では年末にかけて第6波が起こる可能性が示されており、安全な登山を行なうには適切な対策を継続することが重要だ。

対策の基本は、個人レベルでは3密回避、マスクの正しい着用、手洗い励行などで、社会的には人流抑制、ワクチン接種推進、発症後の治療薬開発などが挙げられる。安全な登山を行なうために、登山者は出発前から行政の要請に沿った対策を行なう必要があり、感染拡大地域での救急医療体制への負荷や地元住民の気持ちを配慮して、エリアの変更や高いリスクの山行を控え、公共交通機関で移動中の行動にも注意することが肝要だ。登山時は前述の基本対策(3密回避、マスク着用、手洗い)を行ない、登山後には体力の回復に留意し、万が一、新型コロナウイルス感染症に罹患したときには、関係機関へ連絡を行なう。ワクチン接種については、日本で承認されているワクチンはリスクよりメリットの方が大きいので、一般には受けることが勧められる。

最近注目されていることに、新型コロナウイルス感染に伴う自粛生活による筋肉量の低下(サルコペニア)がある。自粛が6ヶ月を超えると、2型糖尿病の男性では筋肉量が16%も減少すると報告されている。筋肉量減少の原因としては、外出制限・在宅勤務、旅行制限などのライフスタイルの変化の結果、身体活動低下、歩行減少、座位時間・TV時間・巣ごもり時間の増加などが考えられる。また、ストレス、不安、睡眠不良や過食・間食、超



加工食品と低タンパク食の食べ過ぎも影響する。さらに、日光を浴びる時間が少くなると、ビタミンDの減少などにより筋肉合成が低下し、ストレスによるコルチゾール増加により筋肉の分解が亢進するので、巣ごもり生活はサルコペニアを促進する。したがって、新型コロナウイルス感染に伴う自粛生活の結果としてサルコペニアが起こると、慢性的なカロリー過多から肥満をきたし、サルコペニア肥満の状態になる。これは長期的には心血管疾患、糖尿病、骨粗しょう症・骨折、認知症・うつ病のリスクになるので、大きな問題だ。

新型コロナウイルス感染症対策は当面継続されるので、Withコロナ期におけるサルコペニア対策を考える必要がある。身体活動としては、抗重力運動、室内ウォーキング、家事などで体を動かすことが重要だ。食生活としては、食事の質を上げて質の良いタンパク食を含んだ食品を摂り、スナックなどの加工されたものではなく非加工食品を摂ること、サプリメントでロイシンなどのアミノ酸を補うこと、魚油(EPA+DHA)やビタミンDを摂ることなどが挙げられる。

最後に、登山は心身の健康維持・増進に役立つものであり、新型コロナウイルス感染症下での安全な登山についてまとめる。第5波の終息に伴い緊急事態宣言が解除されると、山行に出かける登山者が急増する可能性がある。したがって、登山時の新型コロナウイルス感染防止策を引き続き啓発することが必要だ。また、新型コロナウイルス感染症による山行環境やライフスタイル(巣ごもり)の変容による体力低下などの制約はあるが、感染対策と無理のない計画によりWithコロナ登山を展開していく重要性を強調して講演を終えた。

なお、会報「山」2020年6月号に野口氏が「コロナ禍と日帰り登山の注意」について寄稿されているので、ぜひ参照されたい。また、日本山岳会のホームページ*には、山を愛する全ての方々、登山者、山小屋関係者の皆様へのメッセージがあり、参考になるだろう。

*<http://www.jsmmmed.org/corona.html>



山頂付近の樹林

・群馬県利根郡片品村
・2・5万図Ⅱ至仏山
・2016年10月中旬登山
・片品村役場の北、約7・4km(直線)にあり、西山(1898m)から東に延びる尾根の末端の山になる。

群馬のヤブ山 堂平山(1310m)

中山達也

東西南北

N

S

会員の皆様のご意見、エッセイ、俳句、短歌、詩などを掲載するページです。どしどしご投稿ください。(紙面に限りがありますので、1点につき1000字程度をお願いします)

日本山岳会会員・平野紀子さんのご家族が経営する「ロッジ長蔵」にお世話になったとき、笠科川対岸の雑木の頂が気になった。帰って地形図を見ると堂平山と名前があり、ネットで検索すると、当時1件ヒットし、参考にさせていた。いた。

国道401号片品村戸倉から左(西)に折れ、県道63号に入る。この道は鳩待峠や坤六峠に向かう県道で、分岐から1・5kmほど走ると笠科川(西栗橋)を渡る。さらに300mほど北に向かうと、左(西)へ鋭角に車道が分岐する。目立たないので注意しよう。この道は国道401号の尾瀬古仲橋を渡る手前、左に分岐する道でもある。狭いが舗装されている。

当初、堂平山頂から北東に延びる尾根を登ろうと考えていたが、林道を見ると、尾根末端は石垣の急な法面で登れない。しかし、尾

オンラインによる年次晚餐会ウィークの開催

対面での年次晚餐会は、昨年に続き今年も中止となりました。全国から集まる会員の交流の場としてそれに代わることはできませんが、今年はオンラインによる「年次晚餐会ウィーク」を予定しています。会員外の方もご視聴いただけるよう設定する予定です。ぜひ、お仲間の会員や、会員外の山の仲間の方々もお誘い合わせのうえ、ご視聴ください。

- ◎12月3日(金) 夜：登山の法律問題(弁護士/溝手康史)
- ◎12月4日(土) 昼：秩父宮記念山岳賞授賞式、受賞者講演 同日夜：支部からのたより(北海道支部、福島支部、四国支部、東九州支部)
- ◎12月5日(日) 年次晚餐会記念登山(東京都・陣馬山)
- ◎12月6日(月) 夜：登山におけるコロナ対策の変遷と展望(医師/稲垣泰斗)
- ◎12月7日(火) 夜：山岳登拝道と修験の道—日本三名山・富士山・立山・白山と三大修験・大峯山・羽黒山・英彦山(慶應義塾大学名誉教授、日本山岳修験学会会長/鈴木正崇)
- ◎12月8日(水) 夜：超火山だった檜・穂高(信州大学名誉教授・同理学部特任教授/原山智)
- ◎12月9日(木) 夜：置いてくるのは足跡だけ—南信州山岳文化伝統の会の「エコ登山」の試み(登山家/大蔵喜福)
- ◎12月10日(金) 夜：知られるカナダの山、岩、生活(山岳ガイド・東海支部/谷剛士・山田利行)
- *12月5日の記念登山以外は、すべてzoomを使ったウェビナー(ウェブによるセミナー)で行ないます。時間、内容、申込み方法などの詳細は、追ってホームページやメールマガジン、SNSでお知らせします。

根を南に回り込むと山側が緩傾斜になり、林道の路肩が広くなった。川側にはガードレールもあって、路肩に寄せて駐車した。山側の斜面はカラマツと灌木のヤブで、入るとすぐ、古い作業道跡なのか、平らな段を横切る。この辺りは日差しが入るため、イバラやシダのヤ

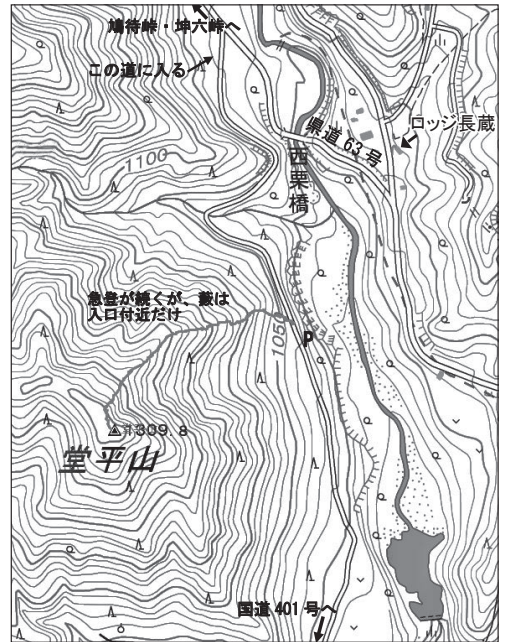
ブが濃い。しかし、10mほど我慢すると、ほとんどなくなる。ヤブを抜けて右上の尾根に急登する。尾根に出たらマージングをすると良い。下山時に直進すると石垣の法面に出してしまう心配がある。広い尾根を登るが、下草も少なく歩きやすい。しばらくして尾

根がやせて明瞭になると傾斜がいったん緩む。さらに登ると、左側(南)にザレた浅い谷が出てくる。この先で尾根は広い急斜面に消える。この辺りもマーキングがあると帰りに楽だろう。

登り始めから約50分、山頂台地に出た。南にわずか下がるとヤブの中から大きな雄鹿がこちらを睨んでいて、一瞬ひるんだが、「ピッ」と一声大きな警告音を出してヤブに消えてくれた。

鹿が立っていた手前の石で囲われた所、落ち葉をよけると三等三角点の頭が出てきた。すぐにも土に覆われてしまいそうな感じだ。ミズナラが多い雑木と灌木で展望はない。

ネットの先人は、ここから北西約500mの1325m標高点まで行っているが、次の1座があるので、ここまでとする。地図とマーキングで



ほぼ登った通り下る。

〔注〕この記述は登った当時のもので現状は変化している可能性があるが、地図・コンパス(GPS)など、ヤブ山に入る準備が必要。

また、掲載図は国土地理院2万5000分の1地形図をカシミール3Dで切り取った地図なので、縮尺は正確ではない。地図上の線はGPSの軌跡だ。

(群馬支部)

同好の士

長野和義

会報2021年4月号のトップ記事に惹き付けられた。筆者は安

藤哲雄氏。タイトルは「若いころとは違う経験ができた 67歳からのヒマラヤ・トレッキング」。健康と意欲があれば高齢になってもできると書き出している。読み進めていくと、私の足跡に非常に似ている。

彼は1940年生まれ、私とはほとんど同じ年齢だ。トレッキングを始めたのは定年退職後の67歳からとのこと。彼は自分の足跡をまとめ、山と溪谷社から本を発行していた。思っていたよりも小さなサイズだった(15cm×15cm)が、非常に綺麗な表紙で魅力的な書籍だった。なんと後半にはすばらしい写真がたくさん掲載され、全119ページのうち、約3分の2が写真である。この構成も気に入った。

この本との邂逅を契機として、自分の海外トレッキングを顧みることにした。安藤氏は高校時代から山に登っていたようだが、私は定年退職する3年前の58歳から山をやり始めた。海外トレッキングを始めたきっかけは、NHK-BBSで女優がヨーロッパ・アルプスをガイドとトレッキングする映像を観て、自分もやってみようと思ったから。私の海外トレッキングの足跡は、2001年からほぼ毎

年どこかへ出かけた。ヨーロッパから始まり、その後各地を訪れ、そしてヒマラヤに収斂していった。これらのトレッキングを通して得た経験や教訓を書き出してみた。

なぜヒマラヤか？

ヨーロッパなどは、確かに景色は美しいが、世界の屋根、8000mクラスの雪嶺はスケールが違う。ヒマラヤのそれには、人を圧倒するすごさがある。

安藤氏は言う。「見たことがない景色や、そこに住む人々の生活に出会うことが楽しみなのである」と。正にそのとおりだと思う。ネパールの山間地に行くと、50年くらい前の日本を見るような気がする。我々が失ったものをそこに発見する。特に無邪気で生き活きた子どもたちには癒される。

単独行は大名行列の気分

2007年7月。パキスタンの氷河をつなぐトレッキングでは、私1人のために20人のスタッフが集まった。費用は前もってこれだけと契約していたから、何人集まろうが私はいっこうに気にしなかった。私専用の4〜5人用のテントが準備され、私はガイド、サブガイドと風景を楽しみ、写真を撮りな

令和3年度第11回登山教室指導者養成講習会の案内

日本山岳会支部事業委員会

支部の登山教室・リーダー育成事業援助として、登山のすばらしさと安全な登山を指導する会員を育成し、支部山行の安全と充実を図り、支部の一層の発展を目的とする指導者養成講習会です。新型コロナウイルス感染症もワクチン接種その他の対策が進み、制限されている登山活動も必ず再開される日も近いことを期待し、その日のために「登山のためのトレーニング」と、登山中のトラブルに対応する「チームと自己を守るスキル」を学ぶ講習です。

また、講師を囲む懇親会は、講師との質疑応答や参加各支部の皆さん方の交流の場として活用してください。

◆主催：公益社団法人日本山岳会 支部事業委員会

◆後援：公益財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団

◆日時：令和3年2月11日(金) 13時集合、座学講義 12日(土) 8時～15時、実技講習

◆場所：安藤百福記念・自然体験活動指導者養成センター(長野県小諸市大久保1100) JR小諸駅よりタクシー10分

◆参加費：6000円(宿泊費・食事3食・資料代を含む) 参加費は受付時に集金。

◆講義内容

【座学講座】「登山のための健康トレーニング」(仮題) 講師：藤繁・医療委員会委員(群馬大学付属病院院長)／チームと自己を守るスキル(仮題) 講師：川瀬恵一・遭難対策委員会担当理事 夕食後、講師を囲んで懇親会を予定。

【実技講習】水ノ塔山で「チームと自己を守るスキル」(仮題) 実技講習講師：川瀬恵一

◆参加資格：日本山岳会会員で、支部山行・登山教室のリーダーを目指す者

◆募集人数：19名

◆締切日：令和4年1月15日(土) 定員になり次第締切ります。

◆申込み方法：12月上旬、各支部長宛に送付する実施要項を確認のうえ、添付の申込み書に記入してメールで左記アドレスにお送りください。

◆申込み先：支部事業委員会・中村哲也まで。

◆お問い合わせ：jacc-shibu@jacc.or.jp

*新型コロナウイルス感染症の状況により延期、変更されることもあります。

がらゆつくり歩く。その間にほかのスタッフは次の休憩場所に先行し、お茶とお菓子を準備する。私が到着すると折り畳み椅子を氷河の上に広げてくれる。正にお殿様である。

食事の肉は途中でヤギを買って、首に紐を掛けて連れていく。数日後にはカレーライスの肉になっていた。このときは1つの氷河を遡り、標高5200mの峠でのテント泊を経験した。

保険加入は必須

私が企画・編成したカラパタールのトレッキング。トレック3日後に1人が高山病に罹り、酸素ボンベでも改善せず、ヘリを要請してカトマンズまで運んだ。残った7人はトレックを続け無事カラパタールに登頂したが、今度はなんと下山中に2人が体調を崩した。最終的には2台のヘリを呼んだのだ。1つのパーティで3台のヘリを呼んだのは、過去に例がなからう。

ヘリの費用は、大体100万円くらいが請求され、病院にかかる費用がこれにプラスされる。このケースは海外旅行傷害保険でカバーされた。トレッキングで保険に

加入することは、絶対に必要なことである。

人脈利用と恩送りも大切

何かをやるには、いろいろな人にお世話になる。トレッキングがらみでは本当にたくさんの人のアドバースや情報をいただいた。私は日本語が上手で優秀なガイドを紹介してもらい、ネパールではいつも彼を雇っている。自分が得たものは、恩送りでほかの人に渡しましょう。



あとがき

私の書斎の壁には、気に入っているブルーポピーの写真が飾っている。私はこの花を見るためだけに、2016年7月、ネパールの雨期に、家内を帯同してゴークヨを訪れた。

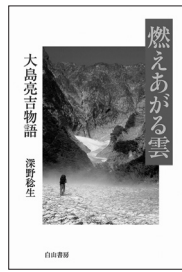
(静岡支部)



図書紹介

深野稔生著

燃えあがる雲 大島亮吉 物語



2021年7月
白山書房
四六判 202頁
1800円+税

大島亮吉は、大学山岳部の大先輩で名前は知っていた。

部報『登高行』にある短い文章を読んだ記憶はあるが、よくは知らない。知らないことが負い目で気になる存在であったので、『燃えあがる雲 大島亮吉物語』が出る

と直ぐに読んだ。

大島亮吉の出生から前穂・北尾根の遭難まで山歴を詳しく知ることが出来る。と同時に、日本の山岳界の生成発展の様子が生き生きと臨場感をもって書かれている。皆様にお勧めしたい。

1921年、横有恒はアイガー東山稜の初登攀に成功し、1922年には大島を含む慶應、東大、京大、学習院OBの混成パーティにより積雪期槍ヶ岳登攀に成功。

翌年には横、三田、板倉の3名が松尾峠で猛烈な吹雪に遭遇し、板倉さんが疲労凍死されている。

1924年、大島をリーダーとする8名の慶應パーティによつて3月31日、積雪期の奥穂高岳が初登頂される。奥穂頂上で誰かが「ブルミエル アツサンション アン スキー! (スキー初登頂)」と叫んだ、とある。

数日して、大島は案内人の松井憲三と2名で北穂高岳の初登攀もやつてのけた。しかし、うかつにもロープとピッケルをテントに置き忘れていたので、松井の鉋で氷雪に刻まれた足場が頼りであった。よく無事に戻れたものだと思う。いったん上高地に降りてから前

図書受入報告(2021年10月)

著者	書名	頁/サイズ	発行者	発行年	寄贈/購入別
下山晃	奇跡の地図を作った男:カナダの測量探検家デイヴ・ドブソン	243p/20cm	大修館書店	2021	出版社寄贈
山田容子(編)	全国山の美術館と博物館:山好きならば必ず行きたい50館	160p/21cm	G.B.	2021	出版社寄贈
山書総目録編集グループ	山岳関係図書目録(追加補訂):和書 1988-2018	102p/26cm	日本山書の会	2021	発行者寄贈
深澤裕	60歳からの海外山旅日記	164p/26cm	白山書房	2021	出版社寄贈
金東奎	韓国人が登った日本百名山:山名の語源を求めて	215p/25cm	金東奎(私家版)	2021	沖允人氏寄贈
田口計介	わがウォルター・ウェストン:戸来彌と従の記憶	48p/21cm	田口計介(私家版)	2019	吉田修氏寄贈
駒ヶ岳ファンクラブ(編)	駒ヶ岳30座ハンドブック	128p/15×21cm	駒ヶ岳ファンクラブ	2017	吉田修氏寄贈
駒ヶ岳ファンクラブ(編)	全国駒ヶ岳校歌集:校歌に歌われたふるさとの駒ヶ岳	159p/21cm	駒ヶ岳ファンクラブ	2006	吉田修氏寄贈

☆女子美術大学ワンダーフォーゲル部より、部報「草鞋」のバックナンバー(創刊号[1957]～第10号[1967]まで)をご寄贈頂きました。

穂の初登頂もなし遂げられたのであったが、大島は所用があつて下山して参加できていない。

大島は「うらおもて」8年かけて慶應義塾大学経済学部を卒業し、外交官試験に失敗した後、麻布歩兵第一連隊に志願入隊している。なぜ志願入隊したのかは説明されていないが、入隊中に横隊長以下慶應・学習院の6名から成る日本山岳会隊がカナディアン・ロッキーのアルバータ峰の初登頂に成功している。大島も入隊していなければ、この隊に参加していたのではないかと思われる。

この遠征隊にはスイスから3名の強力なガイドを呼び寄せ、ポーターと料理スタッフも引き連れていた。荷物運搬用に24頭、隊員用に15頭の馬も用意されていた。今更ながら階級社会の力を見せつけるかのような一大事業だった。

新聞社の後援を取り付けたので新聞で大きく報道されることとなったが、大島は「ジャーナリズムとアルピニズムには絶対かかわりがない。墮落したとまではいわなくても、その点満足なものではない」と連隊から手紙を送っている。

早稲田大学山岳部の舟田三郎は

無案内主義(サン・ギイド)を標榜して、「われわれはプロレタリアートであり、案内人を雇用できる慶應山岳部はブルジョワ階級である」と断じた。

1924年1月、たった3名の隊員で厳冬の槍ヶ岳を登攀した。「スキーを履かざる山人を交えてのスキー登山は価値なき登山に終わる」「3月の槍には春の陽が雪の上に輝く」と慶應を暗におとしました。

横さんがヘル・マキ(横日那)と呼ばれたように、慶應の登山は旦那登山だというわけだ。

スキーを使った冬山登山をアルピニズムの典型と思っていたようだが、スキーは板カンジキとも言われており、輪カンジキ、金カンジキ(アイゼン)と同様な山道具の一つに過ぎない。効率の良い道具があれば使うのは当然であり、使ったからといって高等な山登りとは必ずしも言えないと思う。

しかし、当時スキーは最先端の道具と技術であり、アルピニズムの最先端だと自負していたのだらう。

1928年、4月から大島の経済学部研究室での母校勤務が決ま

った3月、北尾根からの前穂高岳登頂を目指して、慶應隊が徳本峠を越え上高地に入つて、涸沢の岩小屋に着いたのであつた。

3月25日、大島をリーダーに5・6のゴルから前穂を目指すことになったが、ロープで結ばず、大島が凍ったロープを背負った。トップの斎藤長寿郎に、必要ならロープを手渡す算段であつた。

天候が悪くなり3・4のゴルから退却することとなった。トップの斎藤からロープを上げてくれと要請があつたので 大島は「よー

しいま行く、そこで待つてろ」と叫んで登り始めたが、いきなり滑落して姿を消してしまったのであつた。仲間の懸命な捜索でも見付からず、6月になって常次郎ら3名の案内人が4峰下の雪渓上で遺骸を発見することとなった。

滑落の原因は分かていないが、ゲートルにアイゼンの爪を引っ掛けて躓いたのではないか、と言われている。

私が大学生のとき先輩が「大島さんって、つまらない所で死んでいるんだよね」と言ったのを憶え

在庫図書の頒布のお知らせ

図書委員会委員長

会員サービスとルーム整理のため、必要保管部数以外の『山岳』『The Japanese Alpine News』『日本山岳会百年史』を希望者に販売します。頒布価格は一律1,000円(送料込み)です。

希望者は、事務局にFAX、メール、ハガキでお申込みください。販売号数は下記のとおりです。在庫切れの場合はご容赦ください。販売期間は2022年3月末までとします。

『山岳』

Vol.86 (1991年刊)～Vol.115 (2020年刊)

※在庫なし:Vol.94、96、102

『The Japanese Alpine News』

Vol.2 (2002年刊)～Vol.16 (2015年刊)

※在庫なし:Vol.1、4、5、13

FAX : 03-3261-4441 ✉ jac-room@jac.or.jp

ている

大量の著作を残したこと、大島さんのイメージは大物の大先輩であったが、亡くなったのは28歳であつたと知り、びっくりした。

思えば、私と同年の成田潔思は1970年の日本山岳会エベレスト隊に参加していたのだが、風邪を引いて高度順化の失敗から、キャンプIで急逝している。彼も28歳であつた。

あれからもう50年以上も経つ。大島さんが亡くなってからなら93

年も経つのだ。

平成18年10月7日、富山県芦峰寺において大正12年1月の松尾峠で遭難死された故・板倉勝宣氏の「遺蹟の碑」補修完成記念式典が行なわれたと、慶應山岳部OB会報「登高会報」67号(2007年)に報告され、続いて大島亮吉の墓について山田二郎さんから報告がある。大島さんの墓は、文京区蓬萊町23(現・文京区向丘2-26-9)の真浄寺(真宗大谷派)にある。

(佐藤文昭)



令和3年度第6回(10月度)理事会 議事録

日時 令和3年10月13日(水)19時～
場所 集会室およびオンライン
(Zoom)

【出席者】古野会長、坂井・山本・

橋本各副会長、柏・南久松・

萩原各常務理事、松原・松

田・清水・飯田・平川・久

保田・川瀬・長島各理事、黒
川・佐野各監事

【オブザーバー】節田会報編集人

【協議事項】

1・年次晩餐会ウィークについて
協議した(柏)。

2・資料映像委員会のパソコンの
更新・購入について承認した。(南

久松) (賛成15名、反対0名)

3・102号室のエアコンの買い
替えについて承認した。(南久松)
(賛成15名、反対0名)

【報告事項】

1・1件(花王ヘルシア)の寄附金
が確定し、受入れ報告があつた。
(南久松)

2・正会員11名、準会員6名の入
会を承認した旨、報告があつた。
(古野)

3・9月25日開催の支部連絡会議
について報告があつた。(柏)

4・第75回ウエストン祭の助成金
申請について報告があつた。(柏)

5・秩父宮記念山岳賞の審査結果
の報告があつた。(山本、橋本)

6・YOUTH CLUBの現状と
課題について報告があつた。(松原)

7・将来危惧される会員減少に対
する財務委員会からの建議書につ
いて説明があつた。(古野)

8・「山」10月号の発行について報
告があつた。(節田)

ルーム日誌

10月

6日 山行委員会
7日 アルピニズムクラブ 平日

クラブ

8日 図書委員会

11日 スケッチクラブ

13日 理事会 総務委員会 休山

会 山想クラブ

19日 フォトクラブ

20日 会報編集委員会 つくも会

25日 フォトクラブ 緑爽会

26日 00会 平日クラブ

27日 麗山会

28日 山遊会

29日 記念事業委員会

10月来室者 126名

会員異動

物故

萩野昌宏(4673) 21・9・19

宮下秀樹(5550) 21・10・11

佐藤節子(5938) 21・10・8

北原秀介(8267) 21・10・4

鈴木秀郎(12892) 21・7・29

大谷 城(13529) 21・10・16

退会

鈴木裕代(10905)

渡辺 剛(11402) 栃木

松野正紀(12885) 青森

野村欣司(14241)

古城海太(14696)

則包奈緒(16100) 東海

徳弘翔太(16675)

I N F
O R M

インフォメーション

A T I
O N

◆小松由香写真展 ―シリア難民

母と子の肖像

会期 12月10日(金)～16日(木) 平

日・10時30分～19時 土・

日・11～17時(最終日は14

時まで)

○ギャラリートーキョー 10、

11、12日の13時から20分

会場 富士フォトギャラリー 銀座

〒104-0061 東京

都中央区銀座1-2-4

サクセス銀座ファーストビ

ル4F クリエイト銀座本

店 TEL 03-5338-982

2 東京メトロ銀座線・京

橋駅から徒歩1分、東京メ

トロ有楽町線・銀座一丁目

駅出口から徒歩1分、JR

有楽町駅から徒歩5分

◆中村みつを個展「月の旅」

2年ぶりに個展を開きますが、
山旅の絵を中心に、20点ほどの作

品を展示します。

会期 12月1日(水)～12日(日) (月曜

日は休廊) 12時～19時

(最終日は17時まで)

会場 ギャラリーまある(JR恵

比寿駅東口から徒歩3分

TEL 03-5338-6101

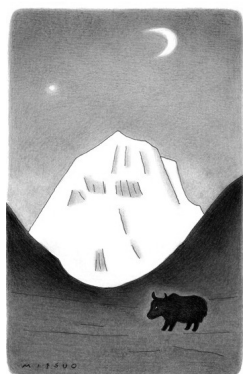
<https://galeriemalle.jp/>

ふと見上げると、そこに月が浮か

んでいました。

今夜は、どんなお話でしょう。

月の旅のはじまりです。



訂正とお詫び

*会報10月号1ページ1段目
「56歳で雌阿寒岳」とあるのは「雄阿寒岳」の間違いでした。訂正さ
せていただくとともに、お詫び申
上げます。また、3ページ2段目「中谷先生
の科学館は、私の故郷の石川県加
賀市にありますよ。」となっていま
すが、これは筆者の勘違いでした。
「中谷吉郎 雪の科学館」の竣工
オープンが1994年11月1日で、
深田さんの没後のことですので、
「中谷先生の科学館を、私の郷里に
欲しいですね。」と訂正させていた
だきます。*同10月号19ページ3段目、緑
爽会の講演会告知文で「申込先」の
電話・ファックス番号およびメー
ルアドレスに誤りがありました。
042-324-405は
042-324-4050
042-324-4050Tomizawa-atsumori@nifty.com
Tomizawa-katsunori@nifty.com緑爽会からは正しい原稿をいた
だいておりましたが、当委員会に
よる入稿作業中、パソコン操作を
ミスし、誤植が生じてしまいました。
緑爽会並びに関係の皆様には
大変ご迷惑をお掛けいたしました。
謹んでお詫び申し上げます。

〈会報編集委員会〉

日本山岳会会報 山 918号

2021年(令和3年)11月20日発行
発行所 公益社団法人日本山岳会
〒102-0081
東京都千代田区四番町5-4
サンビューハイツ四番町
TEL 東京(03)3261-4433
FAX 東京(03)3261-4441
発行者 日本山岳会会長 古野 淳
編集人 節田重範
Eメール: jac-kaiho@jac.or.jp
印刷 株式会社 双陽社

◆編集後記◆

●11月5日、仕事で芦峯寺にある
立山博物館に行ってきました。ち
ょうど開館30周年記念・後期特別
企画展「霊山立山 天空への祈り」
を開催中として、例の剣岳山頂で
発見された「銅錫杖頭附鉄剣」の実
物が展示されておりましたが、も
う一つ目を引いたのは大日山塊・
七福園付近で発見された「銅錫杖
頭(双竜飾)」でした。●この錫杖頭は東京国立博物館に
寄託されているもので、双竜飾は
珍しく、遊環(錫杖に通す細い鉄の
輪)が左右に1個ずつ残っていま
した。平安時代のもと言われま
すが、じつと眺めていると、禪定衣
に身を包んで立山の稜線を行く、
修験者たちが打ち鳴らす錫杖の響
きが聞こえてくるような、東の問
の祈りの時間でした。(節田重範)